

AIエージェント時代における 研究の卓越性の再定義

日時・会場

霞キャンパス

2025年9月3日（水）

【英 語】15:30 – 16:30

【日本語】17:30 – 18:30

会場：医学部第5講義室

対象：広島大学の研究者 ※大学院生も参加可

・ 医系科学研究科・病院合同FD

・ 新任教員研修プログラム対象

※職員証をお持ちください。

※英語と日本語の講演内容は同じです。

AIエージェントが仮説を立て、実験を設計し、論文まで書いてしまう時代になりました。そうすると、これまで重視されてきたインパクトファクターや論文数といった指標にどんな意味があるのでしょうか。本講演では、自律的に研究を進めるAIシステムの登場が、私たちの「優れた研究とは何か」「研究者の貢献とは何か」という根本的な考え方をどう変えているのかを考えます。最新のエージェント型AI技術の動向や、研究評価に関するサンフランシスコ宣言（DORA）の理念をもとに、AIが知的作業を担う時代にふさわしい新しい研究の進め方と評価の枠組みを提案します。AIの力を最大限に活用しながらも、人間特有の貢献をどう評価し、活かしていくか。研究機関がとるべき戦略と、科学の進歩における人間の役割を再定義する質的評価の重要性について議論します。

講 師



トム・ガリー Tom Gally

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授として、アカデミック英語プログラムの開発・運営に携わった。現在は東京大学名誉教授、同大学グローバル教育センター特任教授。学術リテラシーの視点から、大学における英語教育と機械翻訳・生成AIの問題について情報発信を行っている。個人サイト：gally.net

参加登録はこちら

